

今週のメニュー

■トピックス

◇環境展示会“エコプロダクツ2014”に8年連続出展

■随想

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(2)

木下 清隆

■編集後記

■トピックス

◇環境展示会“エコプロダクツ2014”に8年連続出展

昨年12月11日から13日までの3日間、エコプロダクツ2014（（社）産業環境管理協会、日本経済新聞社主催）が、東京ビックサイト東ホールで開催されました。今年の出展者数は747社・団体、入場者数は約16万人となりました。

8年連続出展となる今年は、「PVCで省エネ・快適な暮らしと新たな可能性への挑戦」と題して、塩ビ製品の特徴である、長寿命・リサイクル性能で省エネ・資源節約の塩ビ製品の数々を展示し、PVCが地球環境と人に優しいプラスチックであることを訴えました。

ここで、ご来場頂けなかった方々へブースと展示品を簡単にご紹介いたします。

今年は、ここ数年採用したパイプや板などの硬質塩ビを構造材としたブース設計に変え、クリアカラーの軟質塩ビのロールシートをモチーフとし、ブース全体をギャラリー形式とした明るくて開放的でモダンなブースに仕上がりました。

このギャラリーにPVC製品が持つ多くの特性の中から、“長寿命”、“リサイクル”、“省資源”、“耐食性”、“断熱性・遮熱性”、“透明性”、“難燃性”、“デザイン性”、“安全・安心”、“防災に貢献”の10のコーナーに分け、軟質塩ビのロールシートに直接それぞれの特性を簡潔に、グラフィック等を交えながら判りやすく表現しました。また、各コーナー前のスペースにそれぞれの特性に関連したPVC製品をオブジェとして展示しました。



左から「デザイン性」「断熱性・遮熱性」「省資源」



奥のコーナーには「PVCの新しい展開」として、“PVC Design Award 2014” 準大賞の“0 tape”^{ゼロ テープ}、優秀賞の作品“窓辺に花を”、“漢字パズル”などを中心に、塩ビの新しい可能性を追求した作品を紹介しました。

また、会場内エコツアーでは、「素材の力で未来を変える」というテーマで今年も当ブースを取り上げていただきました。理科教育コンサルタントの小森栄治さんと小学校教諭でもある新牧賢三郎さんが交代で、合計約 150 名のツアー参加者にパイプを代表とする製品の長寿命性とリサイクル性、樹脂サッシの省エネ性、60 年近く使用されている血液バッグの安全・信頼性など「塩ビ素材の 10 の特徴」を、展示品を例に丁寧にわかりやすく説明していただきました。



エコツアーの様子

ブース内への案内も従来のクイズラリーに変え新たに投票式のアンケートとしました。来場者には、ブースで展示されている塩ビ製品の 10 の特徴の中で特に良いと思ったものを投票してもらったところ、1 位“デザイン性” (23.6%)、2 位“安全・安心” (15.6%)、3 位“リサイクル” (12.5%) となりました。塩ビ製品でデザイン性の高いブースが出来たことを評価いただけたものと思いますが、次いで安全・安心が高得点を得たのは、排水マスなどの防災製品や医療の現場において命に関わる製品にも塩ビが使われていることが評価されたためと思います。また、リサイクルでは東北大震災の被災地から回収し、再度パイプに成形したリサイクルパイプが目を引いたようです。



ブースに訪れた多くの方々に、PVC 製品の様々な特性と、色々な用途で PVC 製品が使用されているのをご理解頂けたと感じています。

なお、例年とおりに展示ブースで使用されたクリアカラーの軟質塩ビのロールシートやパイプなどは[おさかなポストの会にてリユース](#)して頂き、自然保護のお役に立てることは嬉しいかぎりです。

◇古代ヤマトの遠景〔番外〕(2)

木下 清隆

第一章 伊勢神宮の創建と天照大神

<前回とのつながり>

この大幡主命なる神は一体どのような神なのか、何故、橿田神社の主祭神となったのか、橿田神社はいつ創建されたのか、その他の神々の由来は、といった疑問が幾つも湧き上がって来る。これらのことについて、神社側にも一部を除き確かな記録は残されていない。更に、この大幡主命については何かの間違いで祭神とされたのではないかと云った疑問まで出されている。

1. 天照大神の放浪

このような疑問を解くために、先ず伊勢神宮創建の由来と天照大神誕生の時代背景等を調べることにする。何故、伊勢神宮なのか、それは大幡主命がここに深く係わっているからである。更に橿田神社の天照大神と伊勢神宮の天照大神とはどのような関係にあるのかを明らかにするためである。

伊勢神宮の祭神、天照大神は大昔から現在の地に祀られていたわけではない。日本書紀によれば長い放浪の末に、伊勢の五十鈴川の辺りに落ち着いたことになっている。その放浪は『日本書紀』によれば第十代崇神天皇の六年に始まる。前年から疫病が大流行し、人心が乱れて治まらないことから、天皇は宮中で祭っていた天照大神と倭大国魂の二神を外で祭ることにした。「其の神の勢を畏りて、共に住みたまふに安からず」というのがその理由である。この文は、二神の勢力が強く一緒に住むことができない、と一般に解されているが、このことについては後で検討する。崇神天皇は二神の内の天照大神を、皇女豊鍬入姫とよすきいりひめに託つけて大和の笠縫邑かさぬいむらで祭らせた。大神神社はこの笠縫邑おおみわの場所を三輪山の西の麓にあるせつしやひばら攝社檜原神社の辺りとして、昭和六十一年以降、ここに「豊鍬入姫宮」を鎮斎するようになっている。この三輪山は奈良盆地の南東にあり、古代王家の祭祀の中心をなしてきた聖なる山である。三輪山まに坐す神を祭祀するのが山の西麓にある大神神社であり、その祭神を大物主神おおものぬしのかみという。二神の片方の倭大国魂神は、湍名城入姫命ぬ な きいりひめに託けて祭らせた。ところが姫の髪が抜け、体が痩せ細ってしまい祭ることが出来なくなったという。その後、天照大神の方は、皇女倭姫やまとが豊鍬入姫に代みつえしろって御杖代となり、伊勢の地に落ち着くまでの放浪の旅が始まる。この間の事情について書記には、



豊鍬入姫宮



大国魂神社

「垂仁天皇二十五年三月、天照大神を豊鋤入姫命より離ちまつりて、倭姫命に託けたまふ、爰に倭姫命、大神を鎮め坐させむ処を求めて、菟田の筱幡に詣る。更に還りて近江国に入りて、東、美濃を廻りて伊勢国に到る。時に天照大神、倭姫命に誨へて曰はく『この神風の伊勢国は、常世の浪の重浪帰する国なり、傍国の可憐し国也。この国に居らむと欲ふ』とのたまふ。故、大神の教の隨に、其の祠を伊勢国に立てたまふ。因りて齋宮を五十鈴の川上に興つ。是を磯宮と謂ふ。則ち天照大神の始めて天より降ります処なり。」

と記されている。天照大神の祭祀役が豊鋤入姫命から倭姫命に代わって以降、大神の遍歴が始まるが、その遍歴の跡は笠縫邑→菟田の筱幡→近江→美濃→伊勢だったことになる。

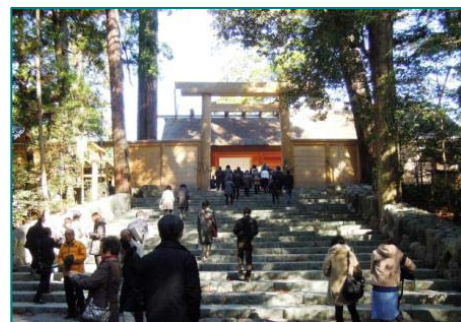
遍歴の年数は普通に考えても相当の歳月だったろうと想定されるが、そのことは何も記されていない。ここに出てくる菟田の筱幡の地は、大和国宇陀郡榛原町の辺りとされている。大和から伊勢へ抜ける街道筋とみられるが明確な場所は特定されていない。又、この書紀の記載に依れば倭姫命が伊勢国に至ったときに、天照大神の希望でこの地に祠が建てられたことになっている。その時期は書紀の記述から第十一代垂仁天皇の二十五年とされている。

以上は書紀本文の内容に従った場合の天照大神の放浪記であるが、これとは別に、書紀の中に一書の形で引用されている史料に、天照大神の伊勢鎮座の具体的な年を示す次のような一節がある。

「倭姫命、天照大神を以って、… 神の誨の隨に、丁巳の年の冬十月の甲子をとりて、伊勢国の渡遇宮に遷しまつる。」

この書紀一書に示されている「丁巳」が具体的な年を示していることになるが、干支による表記は六十年の周期を持つことから、これが西暦の何年に当るかを定めるのは必ずしも容易な作業ではない。この問題は後で触れることにするが一般に伊勢神宮は、垂仁二十五年若しくは二十六年という太古の昔に創建されたものとして理解されている。この垂仁二十五年は、神武天皇即位を紀元前六百六十年として算定すると、西暦元年頃に相当する。しかしながら、考古学的な知見等から見てもこのような古い時代に、伊勢神宮が創建されたとするのは無理がある。

伊勢神宮の不思議なところは、内宮と外宮とが存在し、然も両社が直線距離にして約四kmも離れていることである。内宮には天照大神が祀られ、外宮には豊受神が祀られているが、この豊受神とは一体どのような神なのか、何故、こんなに離れた処に、伊勢神宮を構成する神として祀られているのか。『古事記』には「和久産巢日神の子を豊宇氣毘売神と謂う」とあるが、書紀には何も記されていないため、昔から大きな謎とされて来た。唯、『止由氣宮儀式帳』によれば、雄略天皇が夢のお告げで、豊受神を天照大神の御饌都神として、丹波国から迎えたことになっている。御饌都神とは、天照大神の食事係の神という意味であり、女神である。又、この神は、



伊勢神宮内宮

トヨウケ或いはトユケと呼ばれている。要するに伊勢神宮は、天照大神と食事の面倒を見る豊受神の二神一セットが祀られている神社ということになる。然し、よく考えてみると内宮の方は垂仁朝に造られ、外宮の方は、それから十代も後の雄略朝に造られたことになり、どう見ても年代が違いすぎる。

【注】『止由氣宮儀式帳』とは、延暦二十三年（八〇四）に豊受宮（外宮）から太政官に提出された文書のことである。このとき皇太神宮（内宮）からは『皇太神宮儀式帳』が提出された。これらを併せて『延暦儀式帳』という。

（つづく）

この「古代ヤマトの遠景」に対し、ご意見・ご感想を頂ければ幸いに存じます。>> [\(筆者\)](#)
「古代ヤマトの遠景」: [バックナンバー](#)

■ 編集後記

皆様、明けましておめでとうございます。メルマガご愛読ありがとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。

昨年は2月末のグリーン購入ガイドラインからの塩ビ情報提供項目の削除に始まり、12月末の化審法でのクロロエチレン（塩ビモノマー）が優先評価化学物質の指定が取り消され一般化学物質となって終わった良い一年でした。今年もこれらを励みに塩ビの更なる普及を目指して活動して参ります。また、読者の皆様からも塩ビに関する様々な情報等ございましたらどうぞ弊協までご連絡いただければと存じます。（ももった）

■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



◆編集責任者 事務局長 高橋 満

■東京都中央区新川 1-4-1

■TEL 03-3297-5601 ■FAX 03-3297-5783

■URL <http://www.vec.gr.jp> ■E-MAIL info@vec.gr.jp